

令和8年度 学校自己評価システムシート (県立大宮商業高等学校 定時制課程)

目指す学校像	地域とともに未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒を育成する
--------	--------------------------------

重点目標	1 授業改善により、生徒の主体性を育み、学習習慣の確立と学力を定着させる 2 キャリア教育の充実により、生徒の進路意識を高め、進路実現を支援する 3 地域・保護者・外部団体との連携強化と教育活動の効果的な情報発信により、愛され信頼される学校をつくる 4 コミュニケーション能力の育成により、チャレンジ精神に溢れたたくましい人材をつくる
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<現状> ○少人数のため、対話的な授業展開により、学びやすい環境にある。 ○主体的に学ぶことができる生徒は少ない。 ○資格取得について、生徒、保護者、学校関係者からの要望は高い。 <課題> ○「主体的・対話的で深い学び」となる授業実践の工夫が必要である。 ○義務教育段階で不登校を経験している生徒が多いため、基礎学力の定着、検定試験合格率向上の具体策が必要である。 ○生徒がより意欲的に学ぶためにICTの活用などより一層取り組む必要がある。	○生徒に「主体的に学ぶ方法」を学習させ、基礎学力を定着させる。 ○資格取得を推進する。	①ICTの活用や教材等の創意工夫により、生徒の学習への興味・関心を積極的に引き出す。 ②生徒が成功体験を積み重ねることができ、かつ、主体的に参加することができるような授業を展開する。 ①検定に向けた補習を実施する。	①欠点保有率が昨年度と比較し減少したか。 ②アンケートにおける授業満足度指数が昨年度と比較し上昇したか。 ①検定試験の受験状況。 ①上位級の合格状況。			次年度への課題と改善策
2	<現状> ○昨年度は、進学者向けの行事を充実させ、大学、専門学校への進学者が増加した。また、就職希望者に対しては豊富な進路行事を実施し、希望者全員の進路実現ができた。 ○外部の人的資源を効果的に活用した進路行事が大変充実している。 <課題> ○昨年度に比べ減少しているが、生徒の希望職種と求人にもスマッチが生じている。また、職業理解が不足している生徒がいる。	○生徒が進路実現できるように積極的な指導を行う。 ○自主的、主体的に進路活動を行わせる。 ○就活ノートを活用し、就職希望者のスケジュールの管理を徹底する。 ○生徒の希望職種と求人のスマッチを解消する取り組みをする。	①入学してから4年間を見通した進路行事、LHRにより、生徒の進路意識を高め、自主的、主体的な進路活動につなげる。 ②就活ノートを導入し、就職者のスケジュール並びに担任の業務の低減を図る。 ③学校外部の人的資源を効果的に活用し、企業研究を積極的に取り入れ、職業理解を深め、スマッチが起こらないようにする。 ④新しい進路行事を計画し、進路指導のパイオニアを目指す。	①各種の進路行事を通して、進路意識が向上したか。 ②就活ノートを導入し、就職者のスケジュールの管理、担任の業務の効率化が図られたか。 ③ハローワーク、外部業者、就職支援アドバイザーの効果的な活用により、職業理解が深まり、スマッチが減少したか。 ④新しい進路行事が実施できたか。			
3	<現状> ○志願者数が減少している。 ○学校見学者数や問い合わせは増加している。 <課題> ○本校志願者数を確保する必要がある。 ○行事の開催や地域行事への参加を行い、保護者や地域との連携を強固にする必要がある。	○定時制教育を理解を深めるため、学校見学者への個別対応を充実させる。 ○保護者や地域と連携する機会を増加する。	①志願者に対し、個別に学校説明や授業の見学などを行い、高校生活がイメージできるようにする。 ②学校説明会に積極的に参加する。 ③学校行事について定期的にホームページを更新する。 ①地域のイベントに積極的に参加する。また、学校行事に保護者がより多く参加できるようにする。	①学校見学者の人数が増加したか。 ②学校説明会に参加し、学校の概要が説明できたか。 ③ホームページのアクセス数が増加したか。 ①地域の行事への参加状況。 ①学校行事への保護者の参加状況。			
4	<現状> ○生徒は、概ね落ち着いた学校生活を送っているが特定の生徒の保健室利用が多い。 ○本校入学以前に不登校を経験した生徒が比較的多い。 ○登校指導、日ごろからの声かけ、HR活動を通じて生徒とのコミュニケーションを深めている。 <課題> ○長期欠席者への登校指導 ○多様化する生徒の悩みと相談しやすい体制の確立	○健康観察の強化と欠席の続く生徒の早期発見早期対応をする。 ○授業に関心や参加意欲が持てるよう、生徒に自己肯定感を持たせる工夫をする。 ○SC、SSWとの連携と関係機関との連携、教職員のかせりぐマインドの向上を図る。	①不定愁訴のある生徒の把握及び欠席の続く生徒を把握する。 ②心の健康(自己肯定感)を育成するためのエンカウンターを実施する。 ①SCやSSWの来校日数を増やし予防的かせりぐや関係機関への橋渡しをする。	①SNS等の入力や養護教諭の教室巡回で健康観察等の不定愁訴の把握や欠席の続く生徒の把握をして、生徒の心身の健康状態を早期発見することができたか。 ②年間を通じて、エンカウンターが実施できたか。 ①保健室、SC、SSWによる生徒相談を毎月1回以上行えたか。関係機関への橋渡しができたか。			

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 令 和 年 月 日	
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	